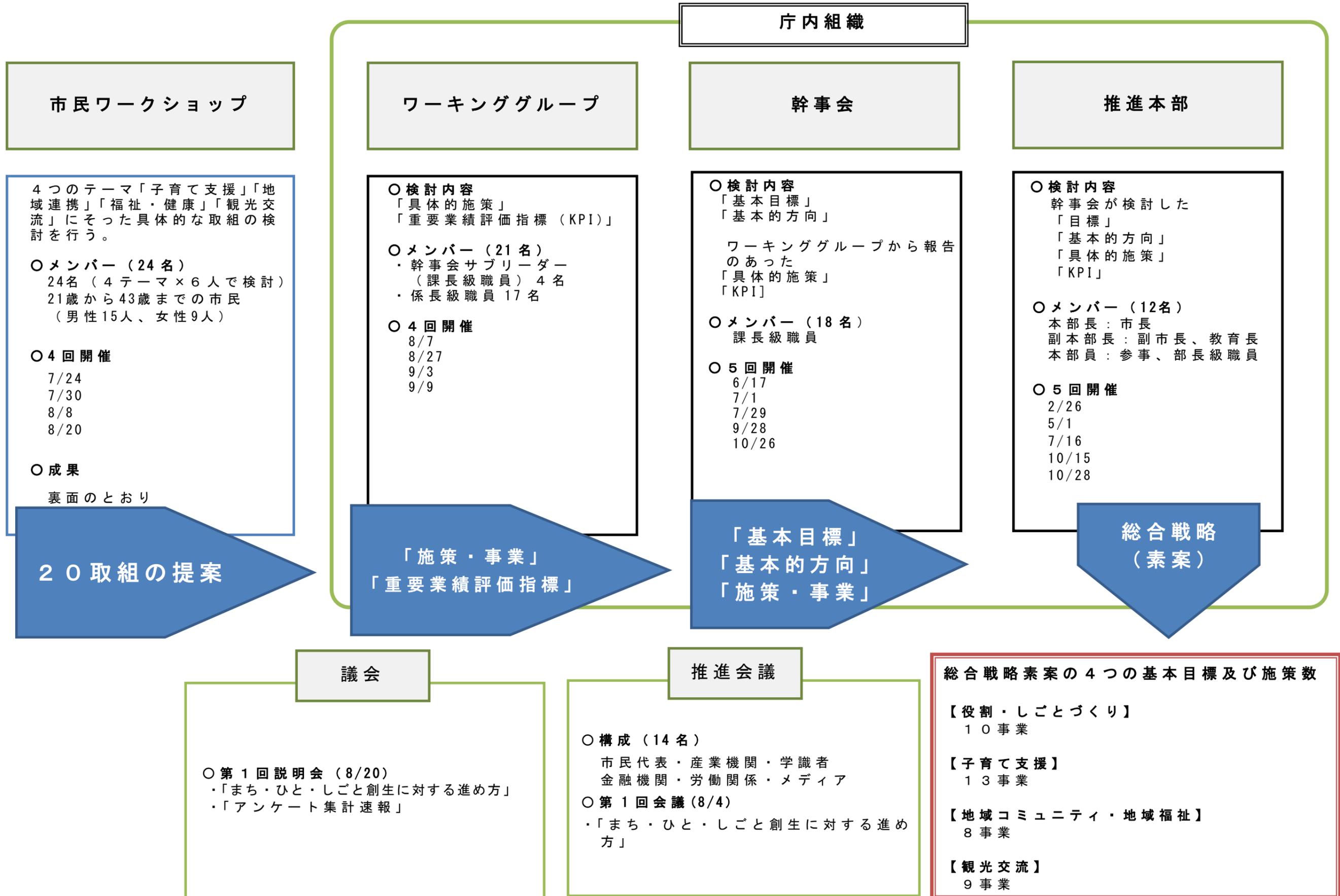


長久手市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定状況

資料1



## 市民ワークショップの成果

4つのグループで最終的に計20の取り組みが提案された。ワーキンググループで検討をした結果、6つの取り組みを具体的に検討することになった。提案のあった事業については、以下のとおり。

市民ワークショップ提案事業一覧		
市民ワークショップ提案事業		総合戦略掲載事業名
事業名	概要	
1	みんなの小さな教育委員会	①学校が抱える教育に関する悩みを、地域の子供から大人までみんなで考え、解決策を探る。 <b>地域学校サポート事業</b>
		②子どもの主体性を育むことに主眼を置いた教育の実現のため、地域の大人が、子どもたちが「やりたいこと」を、子どもが自分で達成できるようにサポートする。 <b>子どもチャレンジ事業 (子どもの夢サポート事業)</b>
2	クレームをお売りください	クレームや陳情を市役所だけが抱えて対応するのではなく、市民の力で、クレームを前向きなアイデアに発展させる仕組みをつくる。市民がまちの不満を集め、自分たちでどう解決していくか、楽しみながら考え実行する。 -
3	お母さん笑顔プロジェクト	日々不安を抱えながら子育てをしているママたちがいきいきと自分の人生を楽しむために、地域でママを支え、ママが子育て以外にも目を向られるよう支援する。 <b>子育てほっと一息ステーション事業 (子育ての息抜きの場の提供)</b>
4	パパの地域参画	仕事と家庭の行き来で、地域に出る機会があまりないパパに、まちで活躍ができ求められていることをリストアップし、まちを助ける役割が与えられることで、パパがヒーローにする。 -
5	子どもの目標となるカッコイイ大人づくり	長久手のために、やってみたいことがある人を発掘し、それをみんなで支援し、カッコイイ大人(「こうしたい」を言葉にして、協力者を募り、実行する人)を長久手に増やす。 -
6	顔の見える出会い	人と出会うとき、「市民対行政」、「学校対保護者」という肩書きをもって出会ってしまうが、地域では肩書きにとらわれない「わたしとあなた」から始まる出会いをいくつもつくるのが大切。そのため、地域で出会い、つながりを作り、困った時に、この人なら「助けを求められることができる」、この人を「助けたいと思う」という関係を多く築き困りごとを地域で解決できる仕組みをつくる。 -
7	みんなでリノベーション (地域の縁結び)	すでにあるもの(空き家・空き土地・使われていない施設)を活用し、地域の人がつながる“居場所”をつくる。つくることから地域のみんな(大学生・企業含む)で行い、リノベーションなどのさまざまな領域の人が関わることで、婚活やその他さまざまな連携関係をつくる -
8	ホワイトバイト	生活支援や子育て支援、その他社会的なニーズがあることは、「ボランティア」として取り組む学生団体等はあるが、ボランティアでまかなうには限界があるため、社会的なニーズがあることを、アルバイトとして学生等が担えるような仕組みをつくる。 ※ホワイトバイト…学生がボランティアで行う社会的課題に対する活動(例 清掃活動)を、アルバイトとして対価を支払う仕組み。ワークショップ時に生まれた造語。 -
9	長久手アントプレナーCollege ～日本一社会起業家が生まれるまちNAGAKUTE～	ボランティアでは限界である社会問題に対し、「社会性」「収益性」「独自性」をもって、根本から社会問題を解決できる人材を輩出する仕組みを長久手につくる。市と大学との連携で「社会起業家」を育成する講座を設立する。 -

市民ワークショップ提案事業		総合戦略掲載事業名
事業名	概要	
10	開かれた大学	大学を学生の勉強する場所としてだけではなく、趣味・興味のあること・やりたいことで人が集まれるようにして、普通関わり合わない人同士(ex.子どもとお年寄り、学生とお母さん)が知り合える場所としても活用する。大学が地域を知る、地域が大学と交流する機会が生まれるよう、大学内に地域の人が訪れるような機会を作っていく。 -
11	うれシニア ～3世代で暮らせるまちへ～	3世代同居ではなく(敷居が高いため)、3世代近居を促すことにより、困っている時に気付き、助けを求められる関係性を構築する。そうすることで、これから育つ若者世代の転出を抑制することにもつながるし、一度外に出た若者も子育てのために戻ってくる。 -
12	集会所大作戦 ～子どもからお年寄りまで～	地域の集会所の場所や使用方法を知らない人が多く、せっかくの集会所が利用されていないため、集会所を活用し、集会所を中心としたコミュニティ活動を行う。具体的には、集会所で子どもからお年寄りが集まるイベントを定期的に開催する(市は活動の支援) <b>集会所等地域施設利活用促進事業</b>
13	看板×解放	立て看板を用意して、人を招くためのキャッチフレーズを書き、私有地に立てることで、その活動や内容に関心を示す人が訪れる。私有地や敷地内を家族だけの閉じた空間とするのではなく、近所の人や偶然そこを通った人にも開放する仕組みをつくる。 -
14	シニアワーキングスペース	シニア層が、周囲の人たちに「俺じゃなきゃダメだ、俺の出番だ!」と思わせるような場所や仕事ができる場をつくる。活躍するシニア層を増やすことにより、まちを活気づけ、「高齢化社会=悪いこと」というイメージを少しでも払拭する。 -
15	長久手版プレーパーク ～野外遊びのススメ～	冒険的な遊び場(プレーパーク)を公園や川で開設し、「自分の責任で自由に遊ぶ」をコンセプトに、多くの世代が自然に触れ合い、集まる場を創る。それにより、子どもからお年寄りまでが外で元気に遊び、ひいては高齢者の役割と居場所づくりにつながる。 <b>長久手版「プレーパーク」事業</b>
16	健康チャレンジャー	「地域全体で健康づくりを」という取り組みがあまりなく、個人での健康のための取り組みは長続きしづらいため、自分の健康を考えることから始め、地域で健康づくりを行う機運を高める。 例)自分の健康状態をSNSなどで公開し、同じような状態の人たちでグループをつくり、健康になるための種々の活動に取り組む。 <b>健康チャレンジャー事業 (健康マイレージ)</b>
17	長久手版シェアハウス	多世代が同じ家に一緒に住むことで、互いに学び合い、頼り合い、支え合える関係を作る。これにより、継続的な共生を目指す。独居老人をなくし、孤食をさせないようにする。福祉関係の学生の実践の場となりうるし、学生と老人との交流のきっかけにもなる。 -
18	長久手仕事人	転入者向けに、長く長久手に住んでいる人が長久手案内人となり、自分の言葉で長久手市の魅力、暮らしの情報、歴史、文化などを紹介した情報誌を作成する。 <b>転入者おもてなし事業</b>
19	ながくて100年生	世代を超えた交流がないため、合わせて100歳となる世代の交流をきっかけに、各世代の得意な知識、技能などを交換し合う交流の場をつくり、世代間の交流を促す。 例)小中学校で、12歳の小学校6年生に88歳の市民が長久手市について教える授業をする -
20	教えて！子ども先生 @プチながくてシティ	自分たちのまちの課題について、子どもたちが自ら調べ作成した自由研究を地域の大人に対して発表することにより、子どもに小さい時からまちについて考える視点を持つ習慣をつけると同時に、大人に次代を生きる子どもたちに誇れるまちにしようと思わせる。 -